

産地情勢 (2023.3.9)

ブラジル産とうもろこし

サフィ・コーンの作付けは70%と遅れている。(昨年80%) 雨が続いて大豆の収穫が遅れたことが原因である。(3月7日)

ブラジル国家食糧供給公社は2022/23年産の生産見通しを125.1百万トンに0.8百万トン減少させた。(1月13日)

クロープ カレンダー	作付期	受粉期	収穫期	割合	特徴
フルシーズン・コーン (夏作)	8-9月	11-12月	2-5月	22%	主に国内飼料需要向
サフィ・コーン (冬作)	1-3月上旬	4月	6-8月	76%	輸出の中心 大豆収穫後に作付

ブラジル産大豆

収穫は43%進捗した。(昨年54%) 単収は今後南部にどれくらい雨が降るか次第である。(3月1日)

ブラジル国家食糧供給公社は2022/23年産の生産見通しを152.8百万トン(前年125.5百万トン)に0.2百万トン増加させた。(2月14日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクロープ カレンダー	9月-12月初め	1月	1月-4月

アルゼンチン産とうもろこし

作付けは99%進捗した。9~10月に作付したとうもろこしが一番12月から1月初めの高温乾燥の影響を受けた。天候が今後回復すれば、その後策付けしたとうもろこしの単収は改善するだろう。(2月15日)

ロザリオ穀物取引所は、生産見通しを10百万トン引き下げ、45百万トンとした。(1月26日)

備考	作付期	受粉期	収穫期
作付は2段階に分かれる。	9-11月始め	12-1月	3-4月
	12-1月	3-4月	6-7月

アルゼンチン産大豆

サンタフェ州などで高温乾燥が続いており、生産見通しは2百万トン引き下げ、36百万

トン。(2月15日)

この2週間は比較的良好な天気が続いたが、また高温乾燥予報が出ている。早期に作付けした大豆の生育状況の回復は難しそうである。生産見通しは百万トン引き下げ、38百万トン。(2月8日)

	作付期	着鞘期	収穫期
例年のクropp カレンダー	10月-1月中旬	2月	3-6月

以上、Soybean and Corn Advisor, Inc. Corn+soybean digest より

米国農務省生産量予測 (2月8日)

とうもろこし

(百万トン)

	2020/21	2021/22	2022/23
米国 (9-8月)	358.5	382.9	348.8
ブラジル (3-2月)	87.0	116.0	125.0
アルゼンチン (〃)	52.0	49.5	40.0

- ・米国は輸出需要が75百万bu減少した為期末在庫率は9.71%に0.59%改善した。
- ・アルゼンチンの2022/23年度の生産量が更に7百万トン減少した。

大豆

(百万トン)

	2020/21	2021/22	2022/23
米国 (9-8月)	114.8	121.5	116.4
ブラジル (2-1月)	139.5	129.5	153.0
アルゼンチン (4-3月)	46.2	43.9	33.0

- ・米国は2022/23年度の輸出需要が25百万bu増加した為、期末在庫率は4.82%に0.36%悪化した。
- ・アルゼンチンの2022/23年度の生産量が更に12.5百万トン減少した。

*北半球の穀物年度は21/22の場合、2021年の月から始まるが南米は2022年の月から始まる。(USDA)